

## 総 評



応募作品各賞審査員 山岳写真家 内田良平

ここ数年来、松本ヒマラヤ友好会主催の写真作品を、観て感じることは、**年ごとにレベルアップ**しており、誠にうれしい事です。そして、今回応募された作品の対象山域は、北アルプスのみならず、南アルプス、北海道、関東、九州、さらにヒマラヤと広範囲にまたがり、内容もバラエティに富んでおり、選びながら楽しめました。

**金賞と銀賞の作品**は、剣岳と穂高岳で、日本を代表する岩場を持った名山で、写真映えする被写体だけに、自ずと良い作品に結びついております。**銅賞**は北海道の旭岳、深田百名山の一つであり、いかにも火山国日本の山姿が噴煙と共に、活写されております。**特別賞**は、天狗池に倒立された槍の穂先が実に印象的で、見慣れた景観ながら、構図的に光ったものがあります。

**入賞(1)**は、北極星を写し込み長時間露光したもので、撮りにくい夜間にチャレンジした努力がわかります。**入賞(2)**は、ヒマラヤの朝の光を浴びて、顔を出した雪山の姿は、朝靄と雪稜の前景と相まって良いチャンスにシャッターした作品となっております。そして、**入賞(3)**の新緑のネコヤナギを前景に穂高吊尾根を背景にした作品は、春の上高地を良く表現しており、何よりも穂高と上高地と言った構図がぴったり決まっています。

**佳作3点**のうち2点は、槍ヶ岳を背景にした作品で、もう1点は、コブシ咲く上高地の春を代表する作品となっております、いずれも入賞のカテゴリーにも入りうる作品で、構図的には申し分無い作品です。

特に申したい事は、選外の作品の中にも、入賞、佳作に値する作品が何点もありましたが、はずした理由として、賞が一人の人に片寄らず、多くの方に差し上げたい選者の心証もありました。

注意点として、望遠レンズでの写真の中には、カメラブレによるものか、ピントの甘い写真になってしまい、選に入らなかった作品も数点ありました。**望遠での撮影には、三脚が必要**です。

最後に、写真撮影は、苦しむより楽しむ気持ちで、既成の概念にとらわれず、自分の気持ちを表現して下さい。

### 山岳写真家 内田良平 プロフィール略

日本を代表する山岳写真家。1936年横浜市生まれ。主な作品に「エベレスト街道」「カトマンズ百景」「アンナプルナ周遊」「ヒマラヤ巨峰14座と高峰」「上高地」「日本百名山」「ヒマラヤ50峰・岩雪氷雲そして光」「ヒマラヤ百花」など多数。日本山岳写真集団人、ベルニナ山岳会々員、日本山岳会々員

この展示会を実施する事で、多くの市民の皆様幅広く観賞していただき、長野県内外の美しい自然やの登山への関心を、一層深めてもらうことを願っています。

平成26年2月21日



特定非営利活動(NPO)法人 松本ヒマラヤ友好会  
理事長 鈴木雅則

特 別 賞



池に映る槍ヶ岳 中山 賢次

金 賞



針ノ木岳より剣岳遠望 小松 佑次

銀 賞



前穂から望む、奥穂高、ロバの耳 市川 浩章

銅 賞



旭岳の爆裂火口 吉岡 久男

入 賞 ①



秩父、羊山の芝桜と星

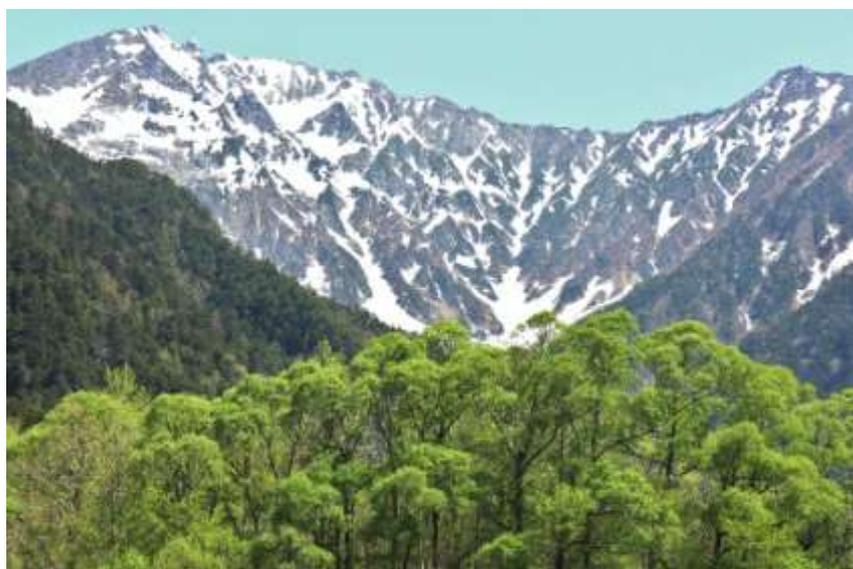
井深 剛

入賞②



神宿るヒマラヤ チョラツエ。タウツェ 甕 俊昭

入賞③



新緑と穂高 海野 靖子

佳作①



播隆平と槍ヶ岳 吉田 和夫

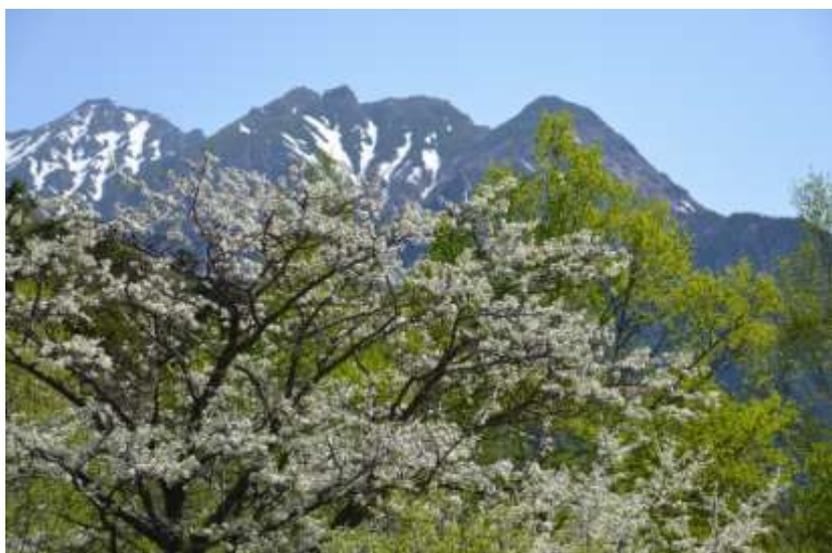
佳作 ②



山岳を走る登山電車

中山 賢次

佳作 ③



小梨咲く上高地

上條 賢介

会場の様子



会場受付



大ホール展示場



受賞者